

iシェアーズ
月次ETF*資金流入レポート



渡邊 雅史
ブラックロック・ジャパン株式会社
iシェアーズ事業部
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されています。その規模は2.4兆ドル（約240兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。
**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2014年4月のETF資金流入 ～幅広い資産クラスに資金流入～

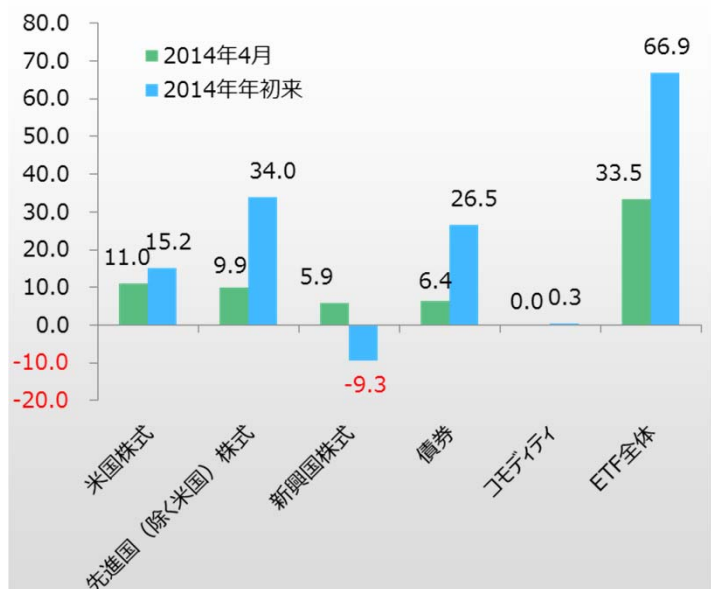
2014年4月のETFへの資金流入は、335億ドル（約3.4兆円）の流入となりました。

米国のマクロ指標が比較的堅調だった中でも、企業決算への警戒感からか、米国株式市場は一進一退となりました。しかし、その中ではグロース株からバリュー株（またはモメンタム株からディフェンシブ株）への動きが見られたりと、投資家が投資戦略を変化させている様子が覗えました。

そのような中で、3月の終わりから見られていた新興国株式ETFへの資金流入は4月の月初も継続しました。これについては、新興国へ幅広く投資するETFが資金フローを主導しており、新興国のETFを空売りしていた投資家が、そのポジションを手仕舞う動きがあった模様です。さらに、先進国の株式ETFにも幅広く資金流入が見られたことから、全体としては投資家が株式へ資金流入を続けている様子が見られました。

債券ETFでもエマージング債券への流入が2012年10月以来の金額（13億ドル）になるなど、様々な懸念がありながらも、新興国に投資家が目を向けている様子が見えました。

【世界のETFの資金流入（十億ドル）】

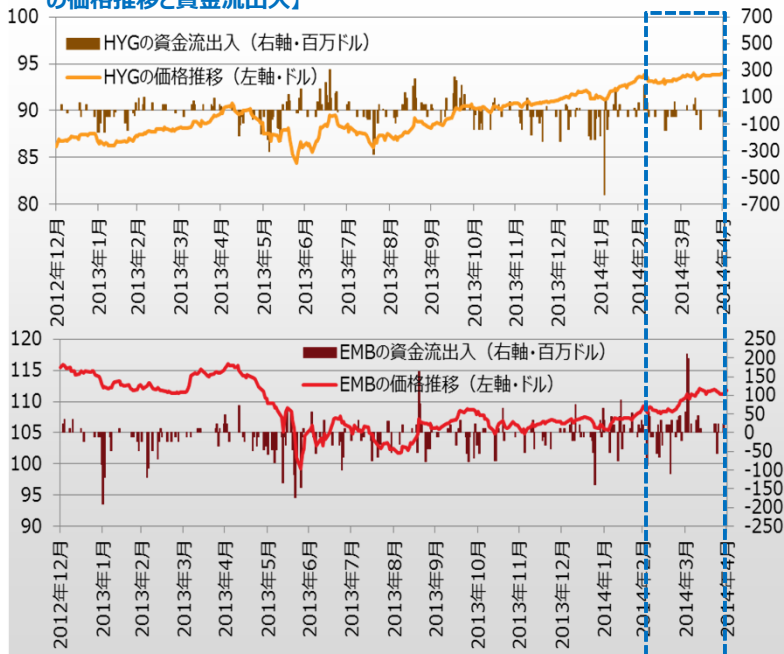


出所：ETP Landscape Apr 2014, BlackRock

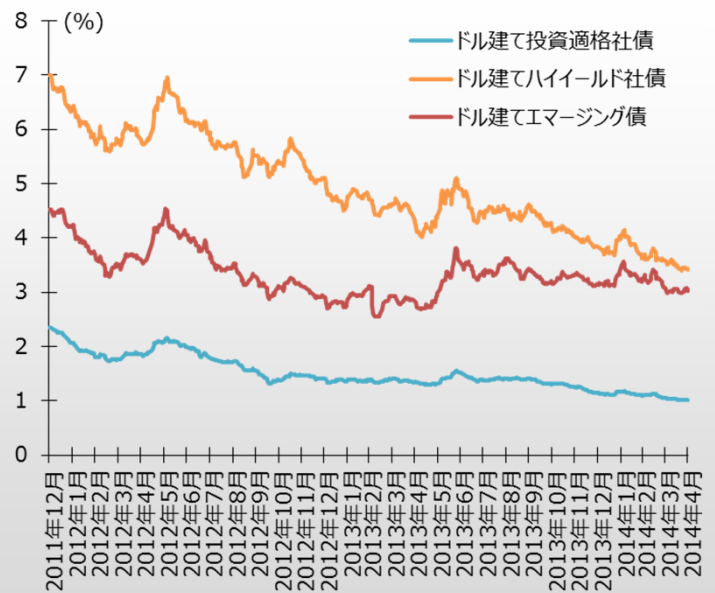
当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

ETFから見る世界の投資家動向 ～縮小を続けるクレジット・スプレッド*～

【HYG(iシェアーズ iBoxx米ドル建てハイールド社債 ETF)と EMB(iシェアーズ J.P.モルガン・米ドル建てエマーシング・マーケット債券 ETF)の価格推移と資金流入】



【クレジット・スプレッドの推移 (パークレイズの各セクターのインデックスベース)】



出所：ブルームバーグ

*クレジット・スプレッド＝信用リスクの伴う債券と国債との利回り格差

FRB（米国連邦準備制度理事会）による量的緩和の縮小が進行中にも関わらず、ウクライナ情勢の不安定さが継続していることや、米国のGDPデフレーターが前期比年率1.3%で、個人消費支出価格指数も前年比1.1%とほぼ変わらずとなるなど、低インフレの継続が示唆されて長期金利がなかなか上がってこない環境下、投資家は社債等の信用リスクを伴っているものの高利回りの債券への投資を活発化しています。しかし、それにより特にハイールド社債のクレジット・スプレッドはかなり縮小してきている一方で、中国やブラジルの景気、テーパリングによる新興国からの資金引き上げ、ウクライナ情勢などへの懸念などからエマーシング債券（ドル建て）は比較的スプレッドの縮小が緩やかです。直近のETFの資金流入（資金フロー）を見るとハイールド社債ETFへの流入は目立った動きがありませんが、エマーシング債券ETFへは比較的流入が活発となっています。ハイールド社債のスプレッドがかなり縮小していることから、リスクをとって利回りを求める投資家がエマーシング債券に目を向けているのかもしれない。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。また、エマーシング市場・フロンティア市場への投資では、一般に変動が大きくなります。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】当ETFを売買する際の手数は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://jp.ishares.com/>）にて当ETFに関する情報を開示しております。

ブラックロック・ジャパン株式会社